

■ ■ ■ 目 次 ■ ■ ■

01 調査概要	2
02 アンケート集計結果	5

平成 27 年度 会津美里町 介護・福祉に関するアンケート調査概要

1. 調査の目的

会津美里町ではこれまでも「安心安全な暮らしづくり」を目指し、認知症対策をはじめさまざまな施策に取り組んできた。本調査は会津美里町に住民登録をしている高齢者の現状とニーズを把握し、今後の高齢者福祉・介護の参考とすることを目的として実施した。

2. 調査対象

会津美里町に住民登録している 65 歳以上の男女 1000 名

3. 調査時期

平成 28 年 1 月

4. 調査方法

自記式郵送アンケート調査

(高齢等により記入が難しい場合は代理記入)

5. 調査主体・実施

会津美里町 健康ほけん課

6. 調査項目

- ・基本事項
- ・地域との付き合いに関する事項
- ・日常生活における困りごとや手助けに関する事項
- ・福祉、介護全般に関する事項

7. 回収結果 (率)

729 票 (72.9%)

8. データ集計・報告書作成

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター

※なお、本調査における類似先行調査として、内閣府が実施した以下の調査のデータを一部設問において、参考資料として掲載している。

<参考資料概要>

1. 平成 21 年度 高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（内閣府）

- ・調査対象者：全国の 60 歳以上の男女 5000 人
- ・有効回収数：3484 人（69.7%）
- ・調査実施期間：平成 21 年 10 月 29 日～11 月 8 日

2. 平成 26 年度 高齢者の日常生活に関する意識調査（内閣府）

- ・調査対象者：全国の 60 歳以上の男女 6000 人
- ・有効回収数：3893 票（64.9%）
- ・調査実施期間：平成 26 年 12 月 4 日～12 月 26 日



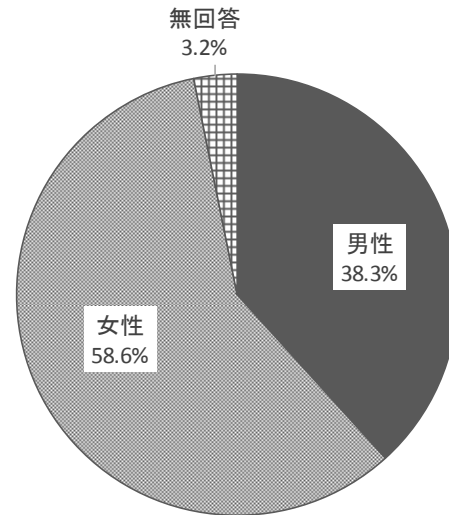
01

■ ■ ■ アンケート集計結果 ■ ■ ■

属性

【問 1】 性別

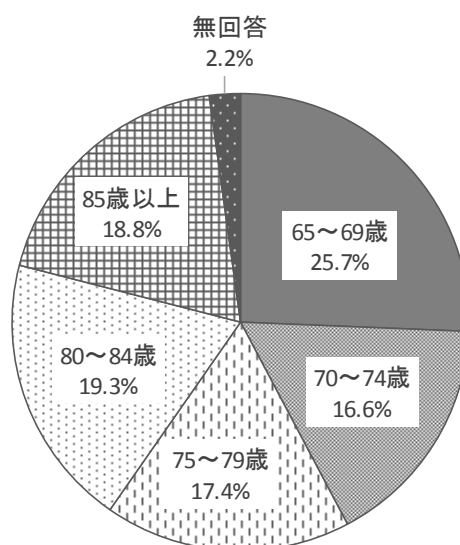
男性	279	38.3%
女性	427	58.6%
無回答	23	3.2%
合計	729	100.0%



回答者は、女性が6割、男性が4割となり、回答者の年代を考慮すると妥当なものと考えられる。

【問2】年齢

65～69歳	187	25.7%
70～74歳	121	16.6%
75～79歳	127	17.4%
80～84歳	141	19.3%
85歳以上	137	18.8%
無回答	16	2.2%
合計	729	100.0%



年代的には偏りなく回答が寄せられているが、高齢者対象の類似調査等に比べると80代以上の高年齢者の比率が高く、代理回答も少なくないと思われる。

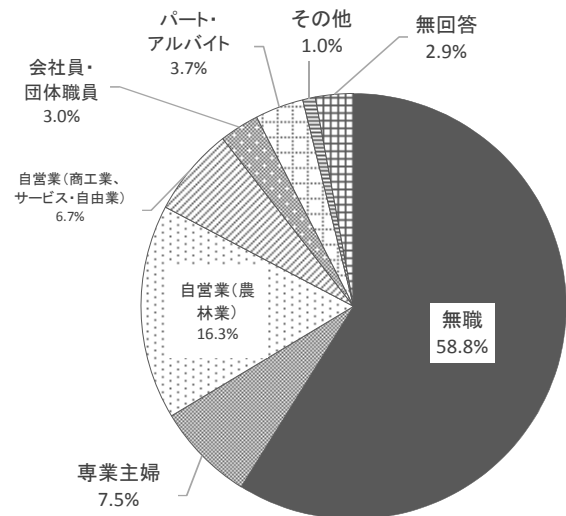
※本調査においては、調査対象者が高齢により記入が難しい場合、代理記入をお願いしている。

◆性別×年齢クロス集計結果

			男性	女性	無回答	総計	
年齢	65歳～69歳	人数	95	91	1	187	
		割合	34.1%	21.3%	4.3%	25.7%	
	70歳～74歳	人数	61	59	1	121	
		割合	21.9%	13.8%	4.3%	16.6%	
	75歳～79歳	人数	43	80	4	127	
		割合	15.4%	18.7%	17.4%	17.4%	
	80歳～84歳	人数	44	93	4	141	
		割合	15.8%	21.8%	17.4%	19.3%	
	85歳以上	人数	34	102	1	137	
		割合	12.2%	23.9%	4.3%	18.8%	
	無回答	人数	2	2	12	16	
		割合	0.7%	0.5%	52.2%	2.2%	
	全体の人数			279	427	23	729
	全体の割合			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【問3】職業

無職	429	58.8%
専業主婦	55	7.5%
自営業（農林業）	119	16.3%
自営業（商工業、サービス・自由業）	49	6.7%
会社員・団体職員	22	3.0%
パート・アルバイト	27	3.7%
その他	7	1.0%
無回答	21	2.9%
合計	729	100.0%



65歳以上が対象ということもあり、6割が「無職」であるが、現役（有職）の方も3割存在し、そのうち半数は、農業従事者となっている。

年代別でみると、60代（後半）では、5割以上の方が仕事を持っており、専業主婦も除いた純粋な「無職」は1/3（35.3%）にとどまる。

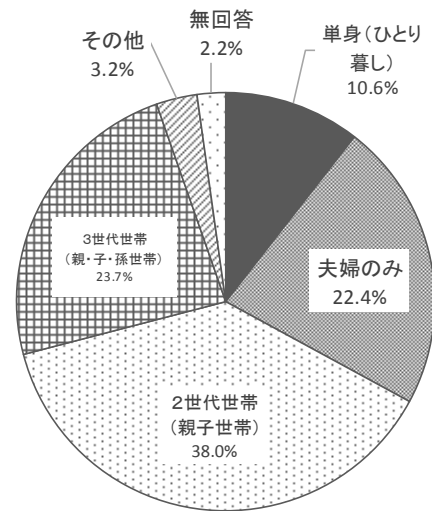
なお、男性における「専業主婦・主夫」の回答はゼロであったことから、本報告書においては、該当項目での回答を「専業主婦」とのみ表記する。

◆年齢×職業クロス集計結果

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	総計	
職業	無職	人数	66	64	71	105	117	6	429
		割合	35.3%	52.9%	55.9%	74.5%	85.4%	37.5%	58.8%
	専業主婦	人数	25	12	9	6	3	0	55
		割合	13.4%	9.9%	7.1%	4.3%	2.2%	0.0%	7.5%
	自営業（農林業）	人数	36	28	24	21	10	0	119
		割合	19.3%	23.1%	18.9%	14.9%	7.3%	0.0%	16.3%
	自営業（商工業、サービス業、自由業）	人数	18	12	13	4	2	0	49
		割合	9.6%	9.9%	10.2%	2.8%	1.5%	0.0%	6.7%
	会社員・団体職員	人数	20	2	0	0	0	0	22
		割合	10.7%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%
	パート・アルバイト	人数	22	2	3	0	0	0	27
		割合	11.8%	1.7%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%
	その他	人数	0	1	3	1	1	1	7
		割合	0.0%	0.8%	2.4%	0.7%	0.7%	6.3%	1.0%
	無回答	人数	0	0	4	4	4	9	21
		割合	0.0%	0.0%	3.1%	2.8%	2.9%	56.3%	2.9%
	全体の人数		187	121	127	141	137	16	729
	全体の割合		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【問4】 家族構成

単身（ひとり暮らし）	77	10.6%
夫婦のみ	163	22.4%
2世代世帯 （親子世帯）	277	38.0%
3世代世帯 （親・子・孫世帯）	173	23.7%
その他	23	3.2%
無回答	16	2.2%
合計	729	100.0%



2世代（親子）世帯が、4割弱（38.0%）で最多であるが、見守り対象とも捉えられる高齢者世帯（単身・夫婦）が1/3を占め、そのうち「独り暮らし」世帯が1割にのぼる。

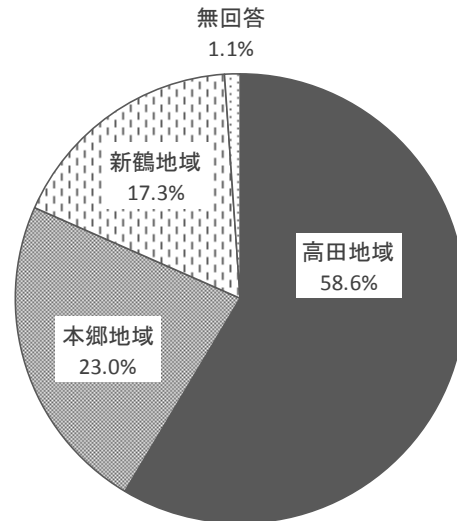
また、年代別にみると、年齢が高くなるほど「単身」比率が上昇する傾向にあり、85歳以上では、6人に1人（16.8%）が単身者となっている。

◆年齢×家族構成クロス集計結果

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	総計	
家族 構成	単身	人数	17	6	14	17	23	0	77
		割合	9.1%	5.0%	11.0%	12.1%	16.8%	0.0%	10.6%
	夫婦のみ	人数	62	38	25	28	9	1	163
		割合	33.2%	31.4%	19.7%	19.9%	6.6%	6.3%	22.4%
	2世代世帯	人数	58	47	50	57	61	4	277
		割合	31.0%	38.8%	39.4%	40.4%	44.5%	25.0%	38.0%
	3世代世帯	人数	44	30	32	31	34	2	173
		割合	23.5%	24.8%	25.2%	22.0%	24.8%	12.5%	23.7%
	その他	人数	6	0	3	6	8	0	23
		割合	3.2%	0.0%	2.4%	4.3%	5.8%	0.0%	3.2%
	無回答	人数	0	0	3	2	2	9	16
		割合	0.0%	0.0%	2.4%	1.4%	1.5%	56.3%	2.2%
	全体の人数		187	121	127	141	137	16	729
	全体の割合		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【問5】 居住地域

高田地域	427	58.6%
本郷地域	168	23.0%
新鶴地域	126	17.3%
無回答	8	1.1%
合計	729	100.0%



高田地域が約6割(58.6%)を占め、次いで、本郷地域が2割強(23.0%)、新鶴地域が2割弱(17.3%)という回答者構成となっており、ほぼ実際の分布に近い比率となっている。

※参考

65歳以上高齢者 各地域比率

高田 (59.5%)、本郷 (24.7%)、新鶴 (15.8%) H26.5月時点

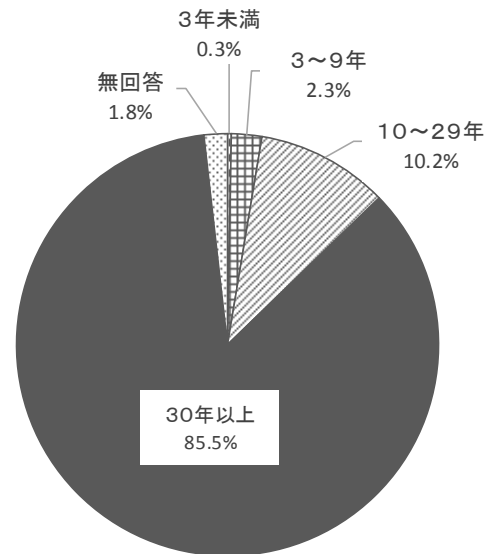
なお、職業別で見ると、新鶴地域で「農業」が、本郷地域で「会社員・団体職員」が、高田地域で「パート・アルバイト」の比率が、それぞれ高めになっている。

◆職業×居住地域クロス集計結果

		無職	専業主婦	自営業 (農林業)	自営業 (商工業・サービス業・自由業)	会社員・ 団体職員	パート・ アルバイト	その他	無回答	総計	
居住 地域	高田地域	人数	261	31	61	29	12	20	5	8	427
		割合	60.8%	56.4%	51.3%	59.2%	54.5%	74.1%	71.4%	38.1%	58.6%
	本郷地域	人数	107	14	16	12	8	5	1	5	168
		割合	24.9%	25.5%	13.4%	24.5%	36.4%	18.5%	14.3%	23.8%	23.0%
	新鶴地域	人数	61	10	42	8	2	2	0	1	126
		割合	14.2%	18.2%	35.3%	16.3%	9.1%	7.4%	0.0%	4.8%	17.3%
	無回答	人数	0	0	0	0	0	0	1	7	8
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	33.3%	1.1%
	全体の人数		429	55	119	49	22	27	7	21	729
	全体の割合		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【問 6】 居住年数

3年未満	2	0.3%
3～9年	17	2.3%
10～29年	74	10.2%
30年以上	623	85.5%
無回答	13	1.8%
合計	729	100.0%



居住年数としては、「30年以上」お住まいの方が圧倒的に多く 85.5%を占める。

10年未満の方は、合計しても3%に達しない。

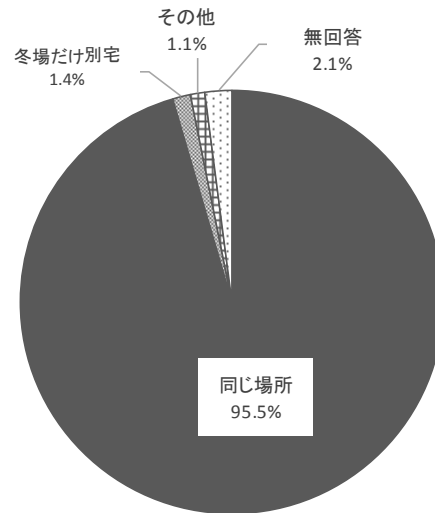
職業別で見ると、どの職業においても「30年以上」居住の方が圧倒的に多いのは変わらないが、その中でも「農業」従事者では、98.3%にまで上っている。逆に、「会社員・団体職員」では、「30年以上」が6割強（63.6%）にとどまり、「10～29年」が3割弱（27.3%）、「3～9年」が1割弱（9.1%）となっている。

◆職業×居住年数クロス集計結果

		無職	専業主婦	自営業 (農林業)	自営業 (商工業・サービス業・自由業)	会社員・ 団体職員	パート・ アルバイト	その他	無回答	総計	
居住年数	3年未満	人数	1	1	0	0	0	0	0	2	
		割合	0.2%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	3～9年	人数	9	3	0	1	2	1	1	0	17
		割合	2.1%	5.5%	0.0%	2.0%	9.1%	3.7%	14.3%	0.0%	2.3%
	10～29年	人数	45	8	2	4	6	5	1	3	74
		割合	10.5%	14.5%	1.7%	8.2%	27.3%	18.5%	14.3%	14.3%	10.2%
	30年以上	人数	371	42	117	44	14	21	5	9	623
		割合	86.5%	76.4%	98.3%	89.8%	63.6%	77.8%	71.4%	42.9%	85.5%
	無回答	人数	3	1	0	0	0	0	0	9	13
		割合	0.7%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	1.8%
全体の人数		429	55	119	49	22	27	7	21	729	
全体の割合		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【問7】1年を通しての居住地

同じ場所	696	95.5%
冬場だけ別宅	10	1.4%
その他	8	1.1%
無回答	15	2.1%
合計	729	100.0%

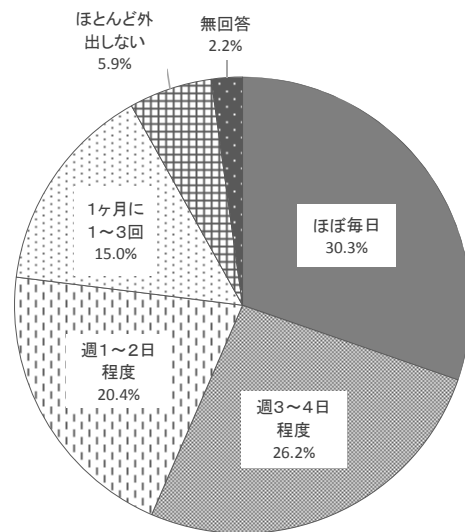


冬場に、通常の住まいとは別な地に居住する実態を調査したものである。
実際に冬期間、別宅に移る方は1.4%（10件）であった。
その他は、主に、施設に居住との回答である。



【問 8】 外出頻度

ほぼ毎日	221	30.3%
週 3～4 日程度	191	26.2%
週 1～2 日程度	149	20.4%
1ヶ月に 1～3 回	109	15.0%
ほとんど外出しない	43	5.9%
無回答	16	2.2%
合計	729	100.0%



外出頻度を伺ったものであるが、「ほぼ毎日」が3割（30.3%）と、有職者比率とほぼ同じ割合とはいえ、やや少ない印象を受ける。週に1度も外出しない「1ヶ月1～3回」（15.0%）や「ほとんど外出しない」層も5.9%と少なくない数字である。

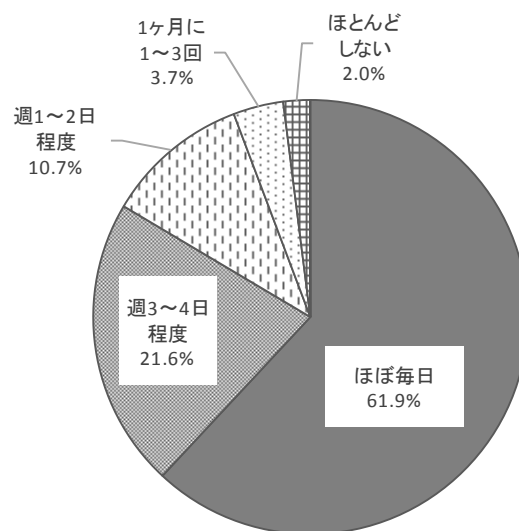
平均外出頻度を算出したところ、3.2回/週であった。ちなみに、下記の全国調査では、平均4.6回/週である。（但し、下記調査は対象が60歳以上）

※「ほぼ毎日」に、24/28、「週3～4日」に、14/28、「週1～2日」に6/28、「1ヶ月に1～3回」に2/28のウェイトをつけて、平均外出頻度を算出

【参考】 高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（内閣府）

Q6.あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。

Q6	総数	割合
ほぼ毎日	2158	61.9%
週3～4日程度	752	21.6%
週1～2日程度	374	10.7%
1ヶ月に1～3回	130	3.7%
ほとんどしない	69	2.0%
わからない	1	0.0%
総計	3484	100.0%



【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別で見ると、男性の4割は「ほぼ毎日」外出しており、25.3%にとどまる女性に比べ活発と云うことができる。週平均回数（外出頻度）でも、女性の2.9回外出に対し、3.6回となっている。

○年代別にみると、74歳未満（前期高齢者）では、「ほぼ毎日」外出する人が最も多いのに対し、75～79歳では、「週3～4日程度」が、80歳以上では、「週1～2回程度」以下の層が最も多くなっている。

また、「ほとんど外出しない」層は、84歳以下では5%以下にとどまるが、85歳以上では、一気に2割弱（18.2%）にまで上る。

平均外出頻度を見ると、その差はよくでており、74歳以下の前期高齢者では、週に4回以上なのに対し、75歳以上から大きく減少し、75～79歳で3.3回、80～84歳で2.5回、85歳以上では1.9回にまで落ちている。

○職業別に見ると、有職と無職で大きく差が出ている。平均外出頻度で比べると、最も（外出について）活動的なのは、「パート・アルバイト」、「会社員・団体職員」で、ほぼ週5回外出となっており、これに続いて「自営業（商工業・サービス業・自由業）」が4.3回、「自営業（農業）」が3.8回となっている。一方、「無職」では2.7回と、週の半分以上は外出しておらず、「専業主婦」も2.9回で、外出頻度については、ほぼ無職と同様の結果となっている。

○地域別に見てみると、「ほぼ毎日」外出する人は、新鶴地域でやや少ないものの、平均外出頻度では、ほとんど地域差はない結果となっている。

	男性	女性
平均外出頻度(週)	3.6	2.9

	65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳 以上
平均外出頻度(週)	4.1	4.0	3.3	2.5	1.9

	無職	専業主婦	自営業 (農林業)	自営業(商工業・ サービス業・自由業)	会社員・ 団体職員	パート・ アルバイト	その他
平均外出頻度(週)	2.7	2.9	3.8	4.3	4.9	5.0	3.6

	高田地域	本郷地域	新鶴地域
平均外出頻度(週)	3.1	3.2	3.2

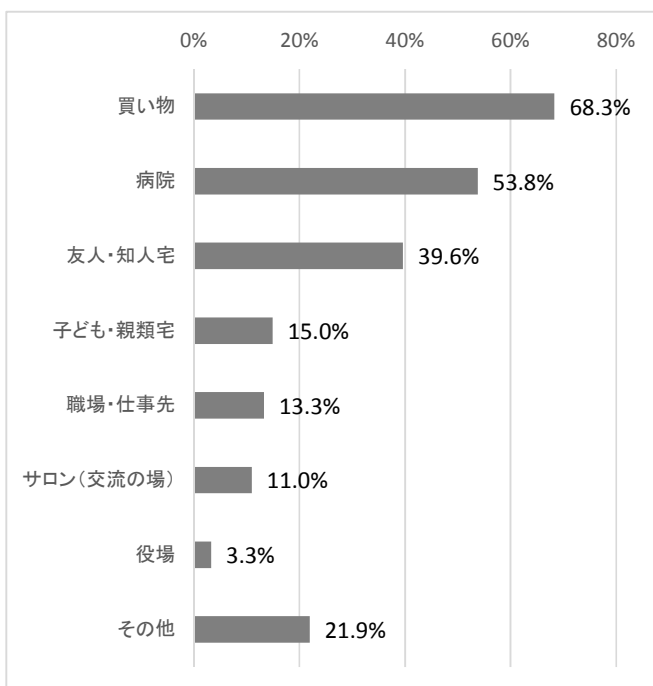
【問 9】 外出先としては、どちらが多いですか。多く行く先を 3 つ、お選びください。

買い物	498	68.3%
病院	392	53.8%
友人・知人宅	289	39.6%
子ども・親類宅	109	15.0%
職場・仕事先	97	13.3%
サロン（交流の場）	80	11.0%
役場	24	3.3%
その他	160	21.9%
合計	1649	226.2%

(N = 729)

◎その他

- ・福祉施設（デイサービス/ショート等）：33件
- ・散歩：15件



主な外出先として最も多かったのは、「買物」で 68.3%と、2/3 以上の方が挙げている。

次いで、「病院」が半数（53.8%）を超えており、この 2 つが目立って多い。

その後、「知人・友人宅」（39.6%）、「子ども・親類宅」（15.0%）「サロン」（11.0%）と、交流・話し相手に会いに行く項目が続いている。

「職場・仕事先」は、13.3%と、有職者比率が 3 割程度あったことを考えると低い数値となっているが、農業従事比率が高いことや、非常勤の方が多く可能性が理由として考えられる。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別

男性では、『職場・仕事先』が2割を超え（22.9%）、女性と比べ（7.7%）明白に高い。女性では、『友人・知人宅』（44.7%）と『病院』（58.1%）が、男性に比べ10ポイント程度高くなっている。

○年齢別

70歳位（「65～74歳」）では、平均回答数が2.4個（240%）前後なのに対し、80歳位（75～84歳）では、2.3個（230%）前後、85歳以上では、2個（200%）を切っており、加齢とともに、外出先が狭まっていく様子が見られる。

年齢が若い方が、『職場・仕事先』・『買物』は高くなり、逆に年齢が上がると、『病院』が増加する傾向にある。

また、『友人・知人宅』については、70代後半をピークとして、その前後の年代が低くなっており、70代の後半あたりが、生活に追われない時間の余裕と、体が動くという両方の条件が揃っている年代だとも考えられる。

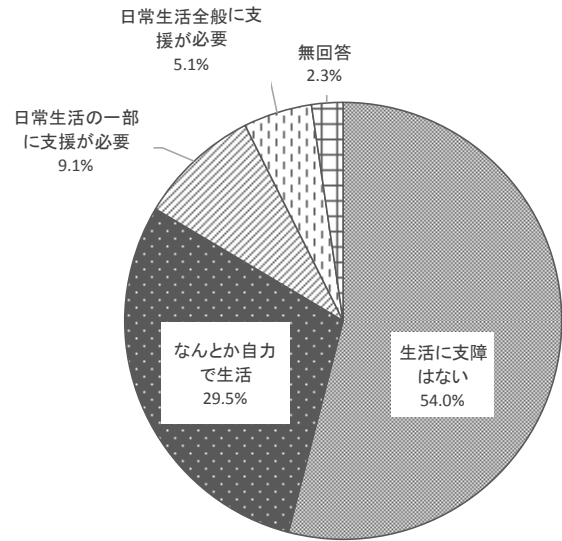
○職業別

「農業」（252.9%）、「パート・アルバイト」（263.0%）の2つが、平均回答数が2.5個を超えており、さまざまなところに外出していると捉えられる。

「会社員・団体役員」、「パート・アルバイト」では、『職場・仕事先』が、それぞれ86.4%と70.4%と高くなっているほか、「専業主婦」と「パート・アルバイト」で、『買い物』が、81.8%と85.2%で8割を超えている。また、「無職」では、『病院』が62.2%と他の職業に比べ高い比率となっている。

【問 10】 日常生活における、あなたの身体の状態を教えてください。

生活に支障はない	394	54.0%
なんとか自力で生活	215	29.5%
日常生活の一部に支援が必要	66	9.1%
日常生活全般に支援が必要	37	5.1%
無回答	17	2.3%
合計	729	100.0%



身体の状態を伺ったところ、半数超（54.0%）が「支障なし」と回答した。

ここは、元気高齢者層と捉えられる。

次いで、「やや支障あり（しかし自立）」が3割（29.5%）となっており、このあたりが、要支援か、その予備軍と想定される。

要介護以上と考えられる「生活の一部に支援を受けている」人が、1割弱（9.1%）、高介護度相当の「日常生活全般の手助け」が5.1%となっている。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別で見ると、男性のほぼ2/3（63.4%）が、「生活に支障はない」と回答しているのに対し、女性では、48.9%と半数を切っている。これは、女性の方が年代の高い人が多いことが主な理由として考えられる。

○年代別にみると、74歳以下の前期高齢者では、「生活に支障はない」が7割を超えているのに対し、75～79歳では、ほぼ半数（52.0%）となり、80～84歳では4割（39.0%）、85歳以上では1/4（24.1%）となっている。

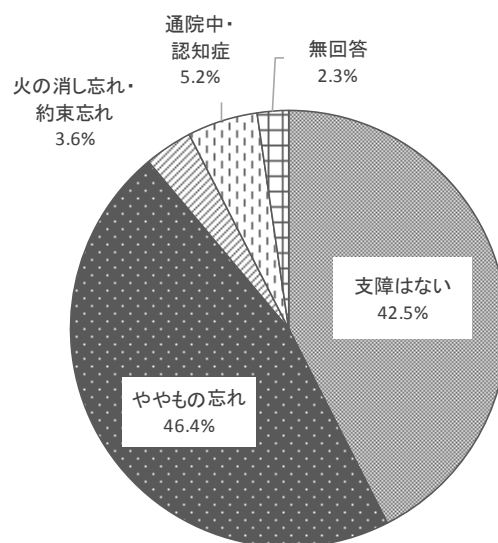
また、85歳以上では、「日常生活の一部に支援が必要」（23.4%）と「日常生活全般に支援が必要」（17.5%）の合わせて4割強が、生活に何らかの支援が必要となっている。

○職業別にみると、有職者と無職とで明白な差が表れている。有職者では、「生活に支障がない」が、「会社員・団体職員」での90.9%を筆頭に全て7割を超えているのに対し、無職では、4割（41.5%）にとどまる。

また、「日常生活の一部に支援が必要」な人では有職者もわずかに見られるが（3%以下）、「日常生活全般に支援が必要」な人では、有職者は、「農業」で1人（0.8%）見られるのみである。

【問 11】 最近、記憶やもの忘れなどに、問題を感じたことはありますか。

支障はない	310	42.5%
ややもの忘れ	338	46.4%
火の消し忘れ・約束忘れ	26	3.6%
通院中・認知症	38	5.2%
無回答	17	2.3%
合計	729	100.0%



記憶、もの忘れについて、伺った設問である。

ここでは、「支障はない」と答える人は 42.5%と、身体状況の「支障なし」に比べてやや少なくなっており、「ややもの忘れ（が多くなってきた）」（46.4%）層が、多くなっている。年齢相応に、物忘れ等の自覚のある方が多い。

要注意である「火の消し忘れ・約束忘れ」の自覚層は、3.6%、「通院中・認知症の診断」は、5.2%と、合わせて1割弱は、記憶や物忘れ、認知機能等の関係で支援が必要な人（と、その予備軍）と考えられる。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○年代別にみると、「支障はない」との回答は、65～69歳では6割（61.0%）を超えるが、70～74歳では、半数を切り（48.8%）、75～84歳では4割弱、85歳以上では2割（21.2%）と年代とともに落ちてゆく。

身体状況の「支障なし」と比較すると、65～69歳で17ポイント、70～74歳で25ポイント、75～79歳で14ポイント、記憶・物忘れの方が低くなっている。記憶力の方が先に自信がなくなる（低下を自覚する）ようである。ちなみに80歳以上では、身体状況とほぼ同じ数値となっている。

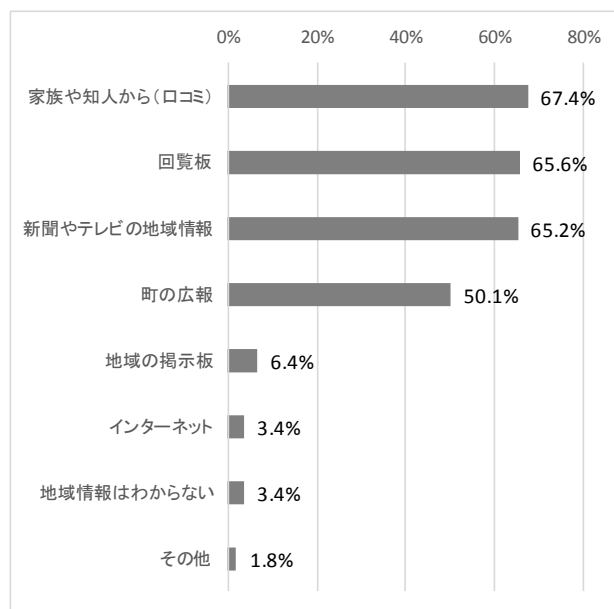
地域とのお付き合いなどについて、お伺いします。

【問 12】あなたは、地域に関する情報をどこから（誰から）知りますか。

※複数回答

家族や知人から（口コミ）	491	67.4%
回覧板	478	65.6%
新聞やテレビの地域情報	475	65.2%
町の広報	365	50.1%
地域の掲示板	47	6.4%
インターネット	25	3.4%
地域情報はわからない	25	3.4%
その他	13	1.8%
合計	1919	263.2%

(N = 729)



地域に関する情報の認知経路を伺ったものであるが、「家族や知人からの口コミ」（67.4%）と、「回覧板」（65.6%）、「新聞やテレビの地域情報」（65.2%）の3つが、ほぼ横並びで、2/3 の人が挙げている。

これに次いで多いのが、「町の広報」で半数（50.1%）の人が回答しており、そのほかの方法は、1割以下と、高齢者にとっては、あまり参照する情報源とはなっていないと考えられる。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別でみると、男性は「新聞やテレビの地域情報」（74.9%）や「町の広報」（57.7%）が女性に比べ10ポイント以上高く、女性は、「家族や知人から（口コミ）」（71.4%）が高くなっており、フォーマルな情報源重視の男性に対し、インフォーマルな情報源重視の女性と見ることもできる。

また、数値的には低い「インターネット」では、男性7.5%、女性0.9%となっており、地域情報の入手方法としてインターネットを活用しているのは、ほとんど男性という結果となっている。

○年代別にみると、年代が若いほうが、より多くの情報の入手経路を持っていることがわかる。（65～69歳で平均回答数3個%⇔85歳以上では2.1個）

そのため、年代が高くなるにつれ、どの情報源でも利用率が落ちていく傾向にあるが、「家族や知人から（口コミ）」と「新聞やテレビの地域情報」の2つは、他に比べ落ち込み幅が小さい。

○職業別でみると、専業主婦と会社員・団体職員で情報の入手経路が多い（各々、2.8個と3個）。専業主婦では、「回覧板」（80.0%）、「家族や知人から（口コミ）」（76.4%）、「町の広報」（63.6%）が、他職に比べ高く、会社員・団体職員では、「家族や知人から（口コミ）」（77.3%）が高い。また、農業者においては、「新聞やテレビの地域情報」（77.3%）が高くなっている。

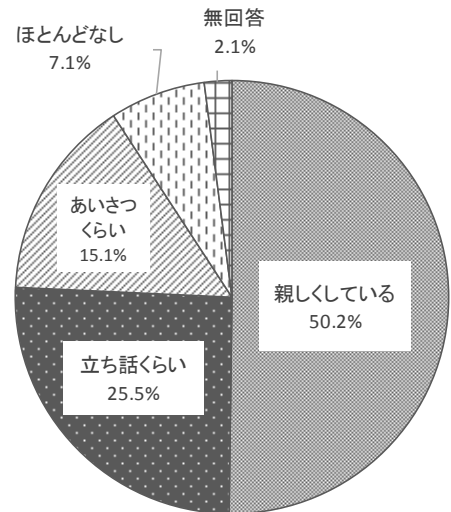
○家族構成別にみると、単身者で「回覧板」（79.2%）が高く、「家族や知人から（口コミ）」（48.1%）が低くなっているのが目をひく。

○地域別でみると、新鶴地域で「回覧板」（48.4%）が、他地域に比べ低くなっている。

○外出頻度別にみると、活発に外出する人ほど、情報経路が多くなっている。特に、「ほとんど外出しない」人は、情報経路が1.7個（167.4%）と、他の人に比べ、かなり低い。

【問 13】あなたは普段、近所の人と、どのくらいのお付き合いをしていますか。

親しくしている	366	50.2%
立ち話くらい	186	25.5%
あいさつくらい	110	15.1%
ほとんどなし	52	7.1%
無回答	15	2.1%
合計	729	100.0%



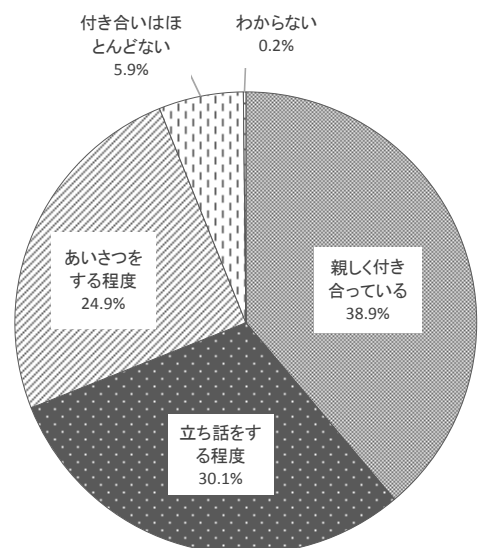
近所付き合いの程度を伺ったものであるが、「親しくしている」が半数（50.2%）に上った。

これは、下記の全国調査の値より、10ポイント以上高い。これに、「立ち話くらい」（25.5%）、「あいさつくらい」（15.1%）と続くが、「ほとんどなし」という孤立に注意すべき層も、7.1%存在する。

【参考】高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（内閣府）

Q7.あなたは、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

Q7	総数	割合
親しく付き合っている	1354	38.9%
立ち話をする程度	1050	30.1%
あいさつをする程度	868	24.9%
付き合いはほとんどない	206	5.9%
わからない	6	0.2%
総計	3484	100.0%



【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○年代別にみると、「親しく付き合っている」のは、70代後半をピークとして前後の年代が低くなっており、問9での主な外出先に「友人・知人宅」を選んでいる層と重なっている。

また、85歳以上では、「付き合いはほとんどない」という層が2割（22.6%）を超える。これは、問8の外出頻度で、85歳以上で「ほとんど外出しない」人が2割弱いたことから、85歳以上の2割内外が、地域生活という観点でみると孤立している状況とも考えられる。ただし、施設に入っていて外部との接触がない人や、自宅で介護されていて近所と会う機会のない重介護度の方なども含まれていると想定される。

○職業別にみると、「親しく付き合っている」のは、「自営業（商工業・サービス・自由業）」（71.4%）や「自営業（農林業）」（63.0%）に多い。このあたりの方は、地域活動におけるキーマンになりやすい存在という事ができる。逆に、「パート・アルバイト」（37.0%）や「無職」（44.5%）では数値は低くなっている。

「付き合いはほとんどない」方も「無職」に多い。

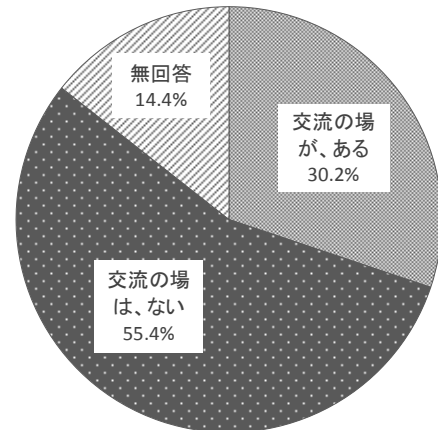
○家族構成別にみると、「親しく付き合っている」のは、「単身」世帯に多い（55.8%）というやや意外な結果となっている。

○外出頻度別にみると、「付き合いはほとんどない」は、外出頻度と相関関係を持ち、ほとんど外出しない層では、1/3以上（34.9%）が、「付き合いはほとんどない」となっている。

【問 14】 近くに近所の人と交流の場

(サロン、井戸端会議、人が集まって雑談するお店や場所) がありますか。

交流の場が、ある	220	30.2%
交流の場は、ない	404	55.4%
無回答	105	14.4%
合計	729	100.0%



近所でのサロンや集い場などの交流の場の有無を伺ったものである。

この設問は、実際の有無そのものというよりは、それを認知しているかどうかを確認している意味合いを持っている。

「ない」との回答が半数（55.4%）を超え、「ある」（30.2%）を大きく上回っている。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○年代別にみると、「交流の場がある」は、70代までは、30%台中後半なのに対し、80代に入ると急激に落ち、80代前半で26.2%、80代後半以上で19.0%となっている。

○職業別にみると、「交流の場がある」は、「自営業（商工業・サービス業・自由業）」で49.0%と高く、「無職」で26.6%と低くなっており、（近所の）"交流の場"の認知は、ご近所の情報力＝近所との付き合いの深さ（問13）とリンクしているとも考えられる。

○家族構成別にみると、「交流の場がある」との回答は、「単身者」でやや多い（36.4%）。

○外出頻度別にみると、「交流の場がある」との回答は、外出頻度が高い人で高く、外出頻度が低い人では、認知度も低い傾向にある。「ほぼ毎日」外出する人では、36.2%なのに対し、「ほとんど外出しない」人では、9.3%と1割を切っている。

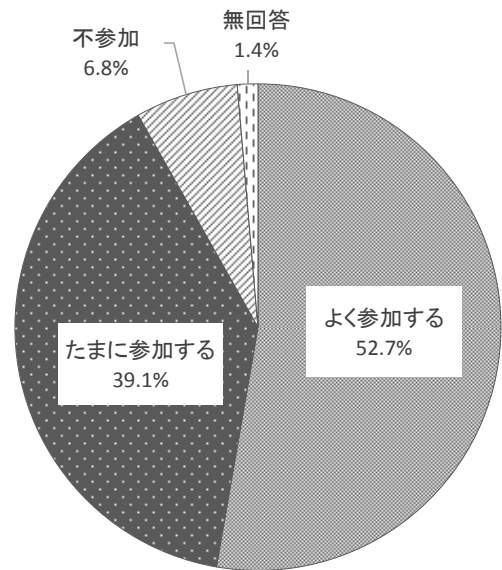
○身体状況別にみると、「交流の場がある」との回答は、身体状況が良好なほど高く、その逆で低い傾向にある。「生活に支障がない」人では、35.3%なのに対し、「日常生活全般に支援が必要」な人では、2.7%にまで落ち込む。これは身体状況（ADL）の悪化が、近隣情報の入手に影響を与えていることを示しており、地域社会から孤立している可能性を示唆している。

【問 15】 あなたは、そのような人の集う場所に顔を出していますか。

→問 14 で「ある」と答えた方のみ

よく参加する	116	52.7%
たまに参加する	86	39.1%
不参加	15	6.8%
無回答	3	1.4%
合計	220	100.0%

(N=220)



前問（問 14）で、近くに交流の場が「ある」と答えた方に、参加経験を伺ったところ、「よく参加する」が半数を超え（52.7%）、「たまに参加する」（39.1%）も含めると、交流の場を認知している人のうち、9割を超える人がつどい場に参加している結果となった。

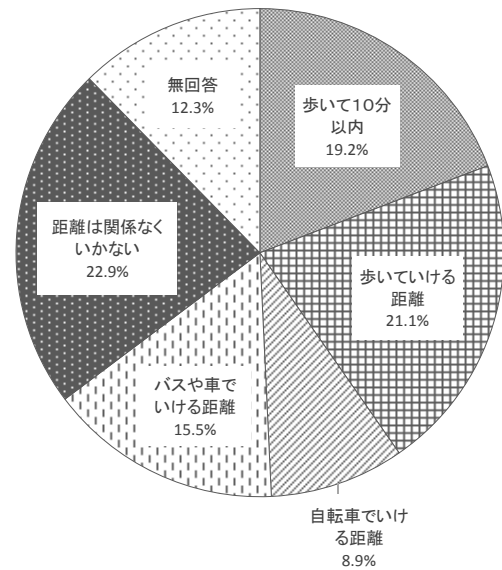
【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○職業別にみると、「よく参加している」人は、無職で多く 57.0%に上る。

○身体状況別でみると、サンプル数が小さいため確たることは言えないが、「日常生活に支援が必要な人」（一部支援が必要＋全般に支援が必要）でも、近隣の交流の場の存在を認知している人は、それなりに参加している（一部に支援が必要な人の 86.7%、全般に支援が必要な人の 100%（1 人））ことがわかる。

【問 16】 そのような集い場のサロンの雰囲気が入った場合、
どのくらいの距離までなら行く気になりますか。

歩いて10分以内	140	19.2%
歩いていける距離	154	21.1%
自転車でいける距離	65	8.9%
バスや車でいける距離	113	15.5%
距離は関係なくいかない	167	22.9%
無回答	90	12.3%
合計	729	100.0%



サロン・つどい場が入った場合、どのくらいの距離までなら通う気になるかを伺ったところ、交通手段が徒歩でなくとも行くという積極派（「バスや車でいける距離」（15.5%）＋「自転車でいける距離」（8.9%））が、1/4（24.4%）に上った。

「歩いていける距離なら」（21.1%）と、「徒歩で10分以内」（19.2%）の近距離派が、それぞれ2割づつとなっている。一方、「距離に関係なく行かない」という層も、2割強（22.9%）存在する。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別にみると、男性で「バスや車でいける距離」が多く、女性で徒歩や自転車との回答が多い。

○年代別にみると、若い年代ほど、「バスや車で行ける距離」が多い傾向にある。また、80代以上になると、「距離に関係なく行かない」人が多くなり、85歳以上では、4割に上る。

○家族構成別にみると、単身者で「距離に関係なく行かない」人がやや少なく（16.9%）なっている。

○外出頻度別にみると、「距離に関係なく行かない」人は、外出頻度が下がるほど、増加する傾向にある。「ほとんど外出しない」人の5割強（55.8%）が、参加意向がない人となっている。

逆に言うと、無回答ものぞき、「ほとんど外出しない」人でも、23%程度の方は、距離的な条件などがあえば、サロンや集い場への参加意向があると捉えることができる。

○身体状況別にみると、どの距離条件でも、身体状況（ADL）が低くなるほど参加意向が落ちる傾向にあり、特に「自転車」や「バスや車」利用での参加意向は非常に低い。

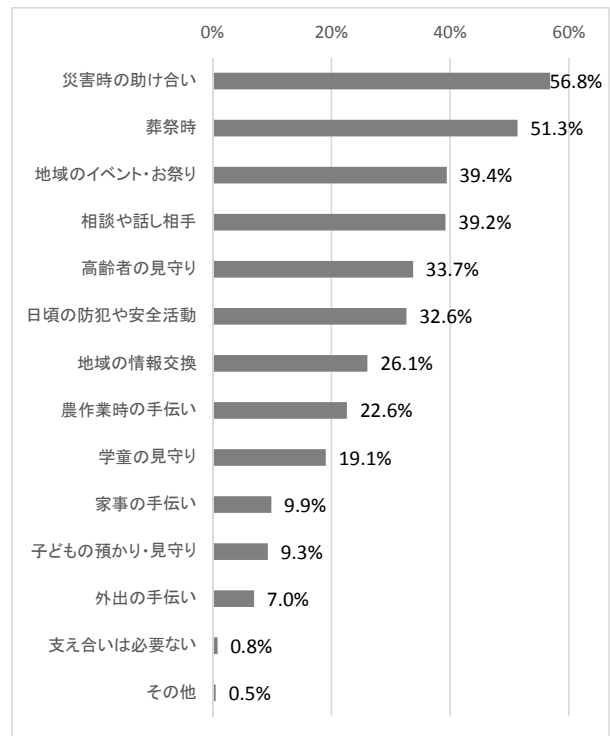
「距離に関係なく行かない」人は、生活に支障がない人で14.7%、なんとか自力で生活している人で24.2%にとどまるが、生活の一部に支援が必要な人では5割（51.5%）、生活全般に支援が必要な人では6割（59.5%）が、距離条件にかかわらず参加意向を持たない。

【問 17】「地域での支えあい」は、どんなときに必要だと思いますか。

※複数回答

災害時の助け合い	414	56.8%
葬祭時	374	51.3%
地域のイベント・お祭り	287	39.4%
相談や話し相手	286	39.2%
高齢者の見守り	246	33.7%
日頃の防犯や安全活動	238	32.6%
地域の情報交換	190	26.1%
農作業時の手伝い	165	22.6%
学童の見守り	139	19.1%
家事の手伝い	72	9.9%
子どもの預かり・見守り	68	9.3%
外出の手伝い	51	7.0%
支え合いは必要ない	6	0.8%
その他	4	0.5%
合計	2540	348.4%

(N = 729)



「地域での支え合い」の必要な機会を伺ったものである。

平均で 3.5 個（項目）が回答されており、高い関心を持たれていると考えられる。

やはり多いのが、「災害時の助け合い」（56.8%）と、「葬祭時」（51.3%）で、この 2 つだけが 5 割を超える。次いで、「地域のイベント・お祭り」（39.4%）と「相談や話し相手」（39.2%）が 4 割程度となっており、以下、「高齢者の見守り」（33.7%）、「日頃の防犯や安全活動」（32.6%）、が続いている。

「学童の見守り」（19.1%）や「子どもの預り・見守り」（9.3%）などの子ども関連の項目は、相対的に低い数字となった。一方、「支え合いは必要ない」という否定派は、0.8%と極少数にとどまった。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別にみると、「地域のイベント・お祭り」、「日ごろの防犯や安全活動」、「葬祭時」で男性の回答が高く、「相談や話し相手」で女性の回答が高い。

○年代別にみると、年代が若いほど平均回答数が多く、85歳以上では2.7個（274.5%）の回答に対し、74歳以下の前期高齢者では4個（400%）を超えており、地域での支えあいの意識が高いとすることができる。

どの項目も若い年代のほうが、数値が高くなっているが、「相談や話し相手」、「家事の手伝い」、「農作業等の手伝い」などは、年代が高いほうで比較的数字が高くなっている。

○家族構成別にみると、単身者では、「地域のイベント・お祭り」や「葬祭時」が明確に低くなっており、「相談や話し相手」が高くなっている。これは、個人のニーズがそのまま表れたものとも考えられる。夫婦世帯では、「地域のイベント・お祭り」や「災害時の助け合い」、「支援が必要な高齢者の見守り」が高くなっている。また、「農作業等の手伝い」は、家族構成が大きくなるにつれ、高くなる傾向にある。

○地域別にみると、高田地域で「支援が必要な高齢者の見守り」がやや高く、本郷地域で「葬祭時」がやや低い。新鶴地域では、「地域のイベント・お祭り」、「日ごろの防犯や安全活動」、「農作業等の手伝い」などが高めの回答となっている。

○外出頻度別にみると、外出頻度が高い人のほうが、平均回答数が多くなっており、ほとんど外出しない人では、2.3個（234.9%）の回答に対し、ほぼ毎日外出の人では、4.2個（426.2%）となっている。どの項目においても、活発に外出している人のほうが数値が高くなっているが、「支援が必要な高齢者の見守り」については、比較的外出頻度による差異が存しない。

○身体状況別にみると、生活に支障がない人で、平均回答数が多く、「地域のイベント・お祭り」、「葬祭時」、などで他よりも明白に高い。なんとか自力で生活の人で、「相談や話し相手」が高い。また、日常生活全般で支援が必要な人では、「支援が必要な高齢者の見守り」が5割（51.4%）を超えている。

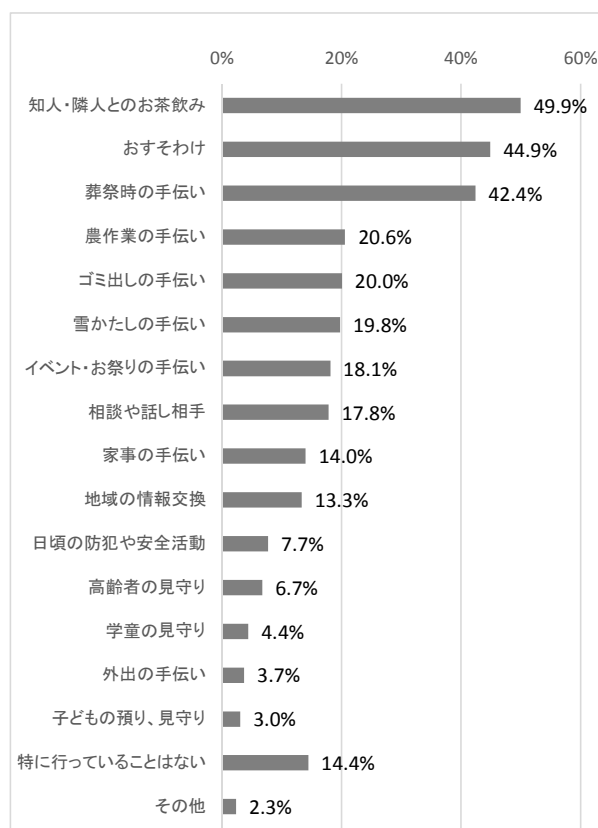
【問 18】あなたが地域で、実際に行っていることを、下記からお選びください。
※複数回答

知人・隣人とお茶飲み	364	49.9%
おすそわけ	327	44.9%
葬祭時の手伝い	309	42.4%
農作業の手伝い	150	20.6%
ゴミ出しの手伝い	146	20.0%
雪かたしの手伝い	144	19.8%
イベント・お祭りの手伝い	132	18.1%
相談や話し相手	130	17.8%
家事の手伝い	102	14.0%
地域の情報交換	97	13.3%
日頃の防犯や安全活動	56	7.7%
高齢者の見守り	49	6.7%
学童の見守り	32	4.4%
外出の手伝い	27	3.7%
子どもの預り、見守り	22	3.0%
特にしていることはない	105	14.4%
その他	17	2.3%
合計	2209	303.0%

(N = 729)

◎その他

・町内の清掃活動（草むしり等も含む）：4件



地域で実際に行っている活動を伺ったものである。

最も多かったのが、「知人・隣人とお茶のみ」で、ほぼ半数（49.9%）の人が行っていた。次いで多いのが、「おすそわけ」（44.9%）、「葬祭時の手伝い」（42.4%）で、ここまでの3つが、4割を超えている。

これ以下は、20ポイント以上低くなり、「農作業の手伝い」（20.6%）「ゴミ出しの手伝い」（20.0%）、「雪かたしの手伝い」（19.8%）、「イベント・お祭りの手伝い」（18.1%）、「相談や話し相手」（17.8%）などが続いている。「高齢者の見守り」（6.7%）や「日頃の防犯や安全活動」（7.7%）は、前問（問 17）での必要性の認識では高かったにも関わらず、実際に関与している率は低いという結果となった。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別でみると、「地域のイベント・お祭り手伝い」、「地域の情報交換」、「葬祭時の手伝い」、「ゴミだしの手伝い」、「雪かたしの手伝い」などは、男性の方が高く、「知人・隣人とお茶のみ」、「おすそわけ」などは、女性の方が明らかに高い結果となった。

○年代別にみると、若い年代ほど平均回答数が多く、74歳以下の前期高齢者では、3.5個（350%）前後の活動となっているが、高年齢になるほど減少し、85歳以上では、前期高齢者の半分以上の1.7個（165%）となっている。

同様に、「特に行っていることはない」という層も、年代があがるとともに増加する傾向にあるが、それでも、85歳以上で1/3（34.3%）にとどまり、2/3の人は何らかの活動に関わっていることになる。

○職業別にみると、自営業（農業）と会社員・団体職員で平均回答数が4.2個（420%程度）と多く、無職と専業主婦で2.6個（260%程度）と、やや少ない。また、無職では「特に行っていることはない」人が2割（20.7%）となっている。

「農作業の手伝い」は、農業でやはり多く、44.5%に上る。

○家族構成別にみると、単身者では、「知人・隣人とお茶のみ」は高い数値となっているが、他の項目は、概して低めの数値となっている。夫婦のみ世帯では、他と比べ、「おすそわけ」や「葬祭時の手伝い」が高くなっている。

○地域別にみると、新鶴地域が他に比べて全般的に高めの割合となっている。特に「地域の情報交換」や「家事の手伝い」、「農作業の手伝い」、「雪かたしの手伝い」などでは明白に高い。

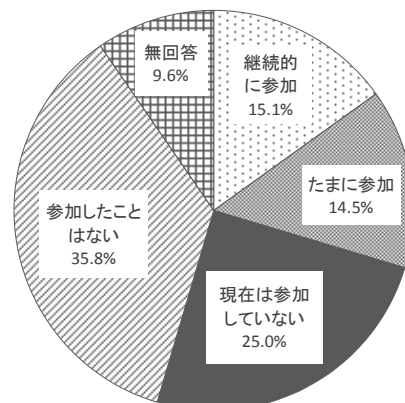
○外出頻度別にみると、前の問17の支え合い活動の必要性の設問に比べ、どの外出頻度でも、実際に行っている活動は、平均回答割合で40～50%程度低くなっているが（回答数が0.4～0.5個少ない）、ほとんど外出しない層では、問17（234.9%）→問18（137.2%）と、100%近く低くなっている。

それを表すかのように、ほとんど外出しない層では、「特に行っていることはない」が5割を超え（51.2%）、突出しているのが目をひく。

○身体状況別にみると、生活に支障はない層や、なんとか自力で生活層では、平均回答数は3個（300%）を超えているのに対し、生活の一部に支援が必要な層では、1.5個（153.0%）、生活全般に支援が必要な層では1.3個（129.7%）と、活動数は半分以上となっている。

【問 19】 あなたは現在、地域活動・ボランティア活動などに参加していますか。

継続的に参加	110	15.1%
たまに参加	106	14.5%
現在は参加していない	182	25.0%
参加したことはない	261	35.8%
無回答	70	9.6%
合計	729	100.0%



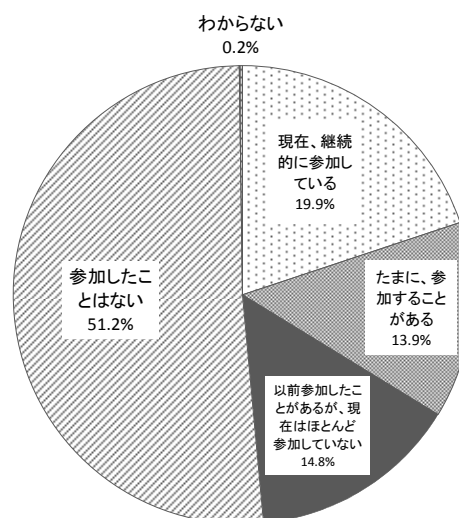
地域活動・ボランティア活動への参加経験を伺ったものである。

「継続的に参加」という積極層が 15.1%となっており、これに「たまに参加」(14.5%)を含めた 3割位が、現在活動を行っている人達である。「参加したことがない」という未経験層も 1/3 (35.8%)存在するが、全国調査の値 (51.2%)と比較すると少数であり、何らかの形で地域活動やボランティア活動に携わった経験者が多いとすることができる。

【参考】 高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（内閣府）

Q14.あなたは、実際に地域活動・ボランティア活動等に参加していますか。

Q14	総数	割合
現在、継続的に参加している	693	19.9%
たまに、参加することがある	483	13.9%
以前参加したことがあるが、現在はほとんど参加していない	515	14.8%
参加したことはない	1785	51.2%
わからない	8	0.2%
総計	3484	100.0%



【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別にみると、「継続的に参加している」が男性で多く（21.9%）、「参加したことがない」は女性で多く（42.9%）になっている。

○年代別にみると、「参加したことがない」は、年代が高くなるにつれ増加する傾向があり、85歳以上では半数（51.1%）に達する。

現在参加している層（継続的に参加+たまに参加）は、年代が若いほど多くなっており、「以前参加したことがある」層は、75歳以上の後期高齢者に多い。

○職業別にみると、無職と専業主婦で「参加したことがない」層が多く、4割を超える。

○地域別にみると、「参加したことがない」層は、本郷地域でやや多く（42.3%）、新鶴地域で少ない（28.6%）。また、「継続的に参加」しているのも新鶴地域が多い（23.0%）。

○外出頻度別にみると、活発に外出している層ほど、「継続的に参加している」、「たまに参加している」が多くなっており、逆に、「参加したことがない」人は、あまり外出しない層ほど多くなっている。ほとんど外出しない人では、6割を超える（62.8%）人が「参加したことがない」としている。

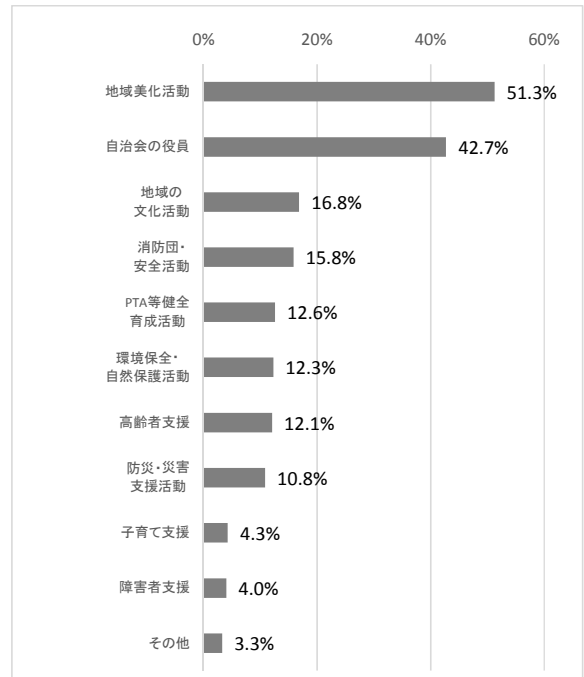
○身体状況別にみると、ADLの高い人ほど「継続的に参加」、「たまに参加」が多くなっている。また、「参加したことがない」人は、生活に支障がない層やなんとか自力で生活層では、3割前後にとどまるのに対し、生活に支援が必要な層では、6割前後と、ほぼ倍の数値となっている。

【問 20】 参加している（参加していた）活動は、どのような分野の活動ですか。

※1：問 19 で「参加している」「参加していた」と答えた方

※2：複数回答

地域美化活動	204	51.3%
自治会の役員	170	42.7%
地域の文化活動	67	16.8%
消防団・安全活動	63	15.8%
PTA等健全育成活動	50	12.6%
環境保全・自然保護活動	49	12.3%
高齢者支援	48	12.1%
防災・災害支援活動	43	10.8%
子育て支援	17	4.3%
障害者支援	16	4.0%
その他	13	3.3%
合計	740	185.9%



(N=398)

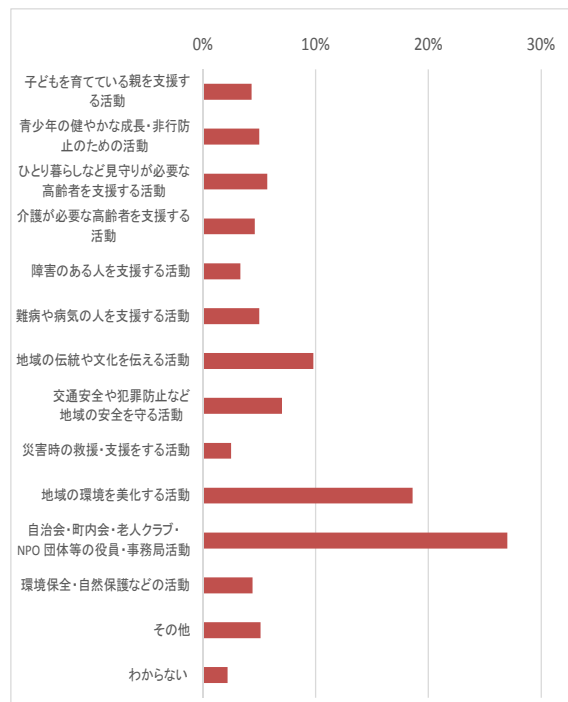
最も多いのは、「地域美化活動」で、半数以上（51.3%）が参加経験がある。

次いで「自治会等の役員」（42.7%）で、この 2 項目が他と比べて圧倒的に参加が多い。全国傾向も同様である。逆に、「子育て支援」（4.3%）や「障害者支援」（4.0%）は、極端に低く、その分野には、あまり意識が向いていないと考えられる。

【参考】 高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（内閣府）

Q14SQ1.あなたは、実際に地域 活動・ボランティア活動等に参加していますか。

Q14SQ1	割合
子どもを育てている親を支援する活動	4.3%
青少年の健やかな成長・非行防止のための活動	5.0%
ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	5.7%
介護が必要な高齢者を支援する活動	4.6%
障害のある人を支援する活動	3.3%
難病や病気の人を支援する活動	5.0%
地域の伝統や文化を伝える活動	9.8%
交通安全や犯罪防止など地域の安全を守る活動	7.0%
災害時の救援・支援をする活動	2.5%
地域の環境を美化する活動	18.6%
自治会・町内会・老人クラブ・NPO 団体等の役員・事務局活動	27.0%
環境保全・自然保護などの活動	4.4%
その他	5.1%
わからない	2.2%



【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別でみると、男性の平均回答数が 2.3 個（225.8%）に対して、女性が 1.5 個（150.5%）と、やや男性のほうが多い。

「自治会役員」、「消防団・安全活動」、「地域の文化活動」、「環境保全・自然保護活動」、「防災・災害支援」と軒並み、男性のほうが高くなっている。「高齢者支援」においては、女性のほうが高い。

○年代別にみると、年代が若いほど、平均回答数が多くなる傾向にあり、85 歳以上では 1.4 個（141.2%）なのに対し、65～69 歳では 2.1 個（206.5%）となっている。

また、「環境保全・自然保護活動」では、前期高齢者（74 歳以下）で明白に高くなっている。

○地域別でみると、高田地域で「地域美化活動」が高く、6 割近い（59.1%）。逆に、本郷地域では、「地域美化活動」や「自治会役員」は他地域に比べ、やや低い。

日常生活における困りごとや、手助けについて、お伺いします。

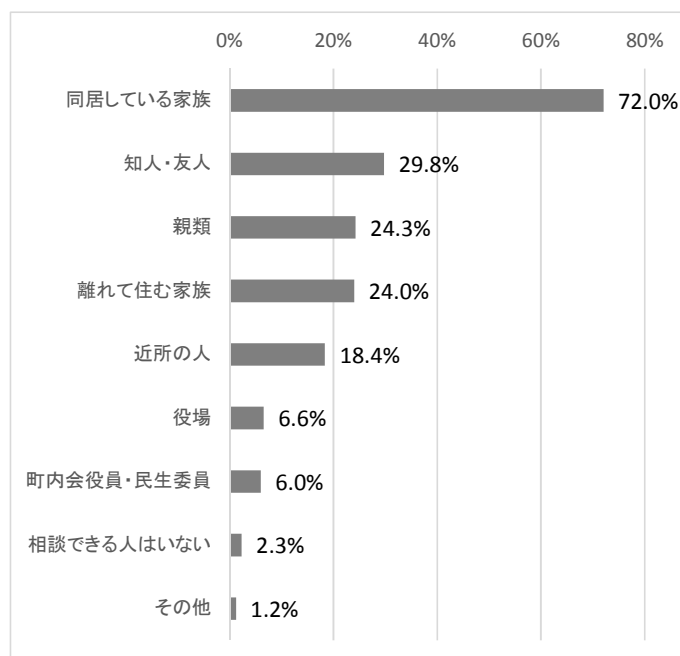
【問 21】 普段、生活する上での困りごとや、悩みなどは、どなたに相談しますか。
※複数回答

同居している家族	525	72.0%
知人・友人	217	29.8%
親類	177	24.3%
離れて住む家族	175	24.0%
近所の人	134	18.4%
役場	48	6.6%
町内会役員・民生委員	44	6.0%
相談できる人はいない	17	2.3%
その他	9	1.2%
合計	1346	184.6%

(N = 729)

◎その他

・ケアマネジャー、介護職員：4件



日常生活における相談相手を伺ったものである。

「同居している家族」(72.0%) が圧倒的に多いのは当然と考えられが、次の「知人・友人」(29.8%) に続いて、「親類」(24.3%)、「離れて住む家族」(24.0%) と身内・血縁関係が続いており、なかなか「近所の人」(18.4%) に相談することは多くないよう見受けられる。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別にみると、大きな差異はみられないが、「離れて住む家族」については、男性 15.8%に比べ、女性 29.7%と倍近い開きが見られる。

○家族構成別にみると、「同居している家族」は、家族構成が大きくなるほど高くなる傾向があり、逆に「離れて住む家族」、「親類」は、家族構成が小さくなるほど高くなる傾向にある。
また、単身世帯においてのみ、「町内会役員・民生委員」と「役場」が1割を超える。

○外出頻度別にみると、「知人・友人」と「近所の人」については、外出頻度が高いほど、割合が高くなる傾向にある。

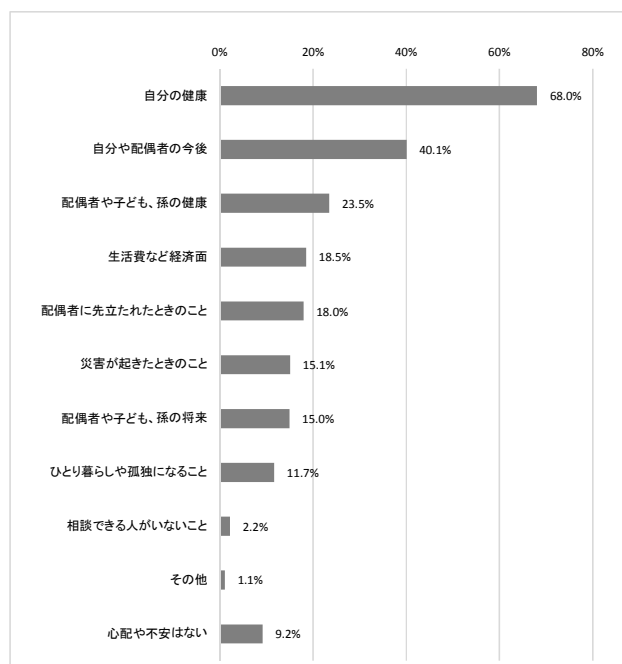
○身体状況別にみると、「知人・友人」では、ADLが高い層ほど、割合が高くなる傾向にある。

【問 22】 現在、心配なことや不安なことは何ですか。

※複数回答

自分の健康	496	68.0%
自分や配偶者の今後	292	40.1%
配偶者や子ども、孫の健康	171	23.5%
生活費など経済面	135	18.5%
配偶者に先立たれたときのこと	131	18.0%
災害が起きたときのこと	110	15.1%
配偶者や子ども、孫の将来	109	15.0%
ひとり暮らしや孤独になること	85	11.7%
相談できる人がいないこと	16	2.2%
その他	8	1.1%
心配や不安はない	67	9.2%
合計	1620	222.2%

(N = 729)



現在の心配・不安を伺ったものである。

飛びぬけて多いのが、「自分の健康」で7割（68.0%）の人が挙げている。

それに次ぐのが、「自分や配偶者の今後」（40.1%）となっており、自分の健康とそれが損なわれたときの生活等に、不安の主眼があることが理解できる。全国調査でも、同じ傾向が見られる。

同様の趣旨の意見は、本調査最後の自由回答でも見受けられる。ご参照いただきたい。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○性別で見ると、あまり大きな差はないが、「自分の健康」では、女性がやや多く、「配偶者に先立たれた時のこと」では、男性が多くなっている。

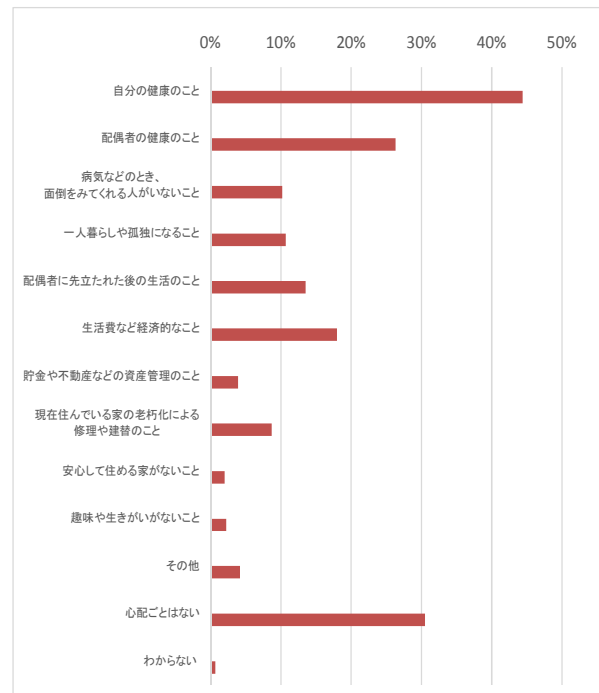
○家族構成別にみると、夫婦世帯で平均回答数が他に比べ高く（301.2%）なっている。

また、単身者では、「自分の健康」が高くなっているほか、夫婦世帯では、「自分や配偶者の今後」が他に比べ、多くなっている。

【参考①】高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査（内閣府）

Q5.あなたは、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。

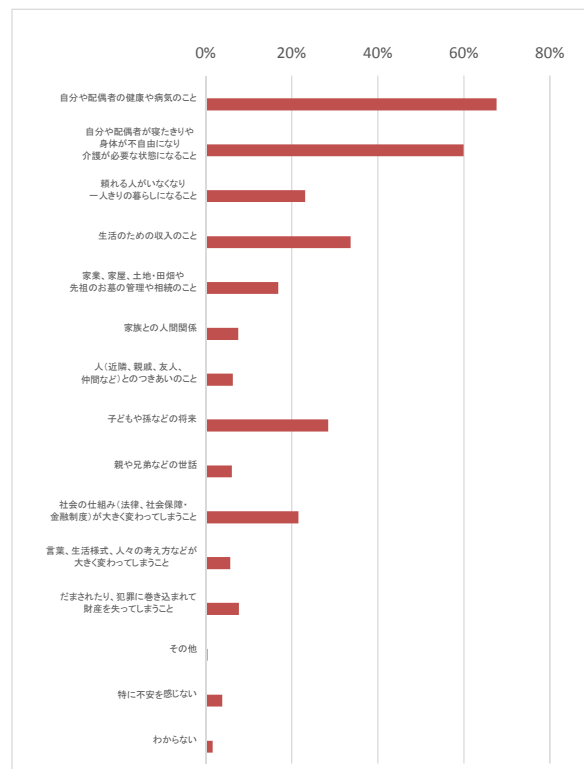
Q5	割合
自分の健康のこと	44.4%
配偶者の健康のこと	26.3%
病気などのとき、 面倒をみてくれる人がいないこと	10.2%
一人暮らしや孤独になること	10.7%
配偶者に先立たれた後の生活のこと	13.5%
生活費など経済的なこと	18.0%
貯金や不動産などの資産管理のこと	3.9%
現在住んでいる家の老朽化による 修理や建替のこと	8.7%
安心して住める家がないこと	2.0%
趣味や生きがいがないこと	2.2%
その他	4.2%
心配ごとはない	30.5%
わからない	0.7%



【参考②】高齢者の日常生活に関する意識調査（内閣府）

Q7.あなたは、将来の自分の日常生活全般について、どのようなことに不安を感じますか。

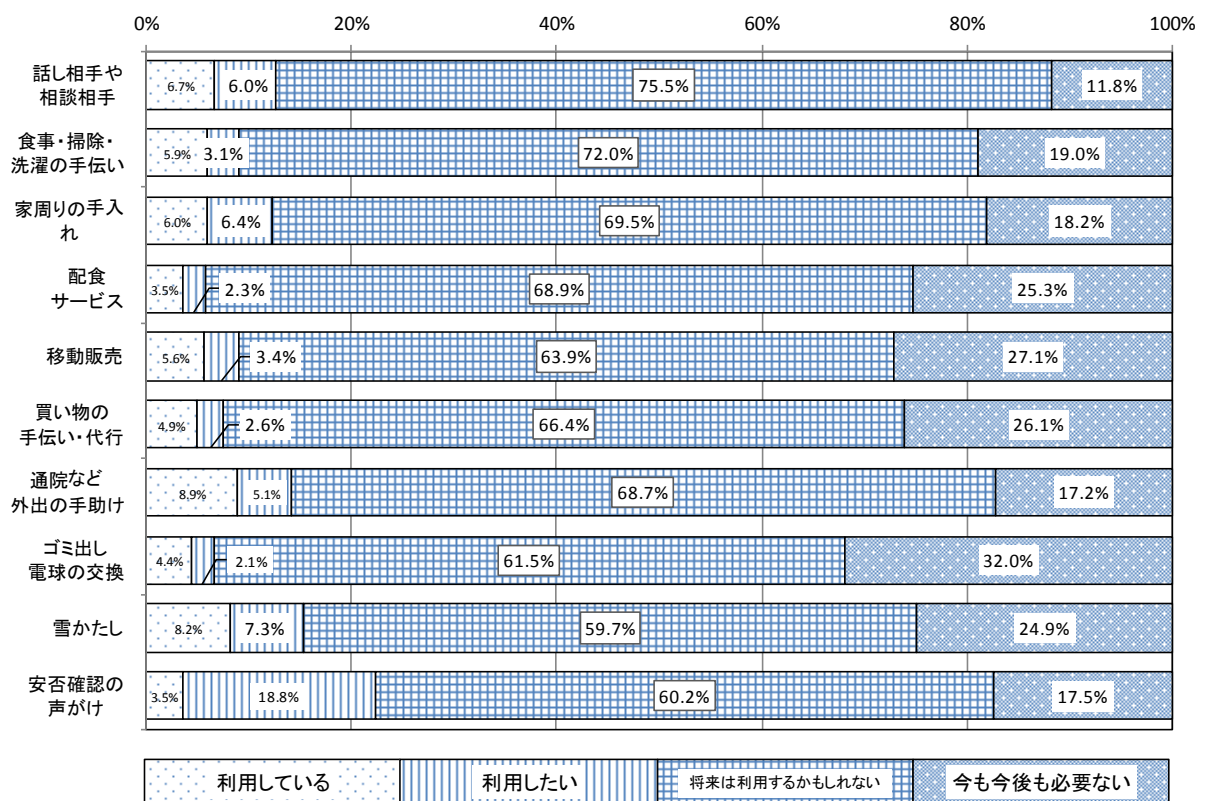
Q7	割合
自分や配偶者の健康や病気のこと	67.6%
自分や配偶者が寝たきりや 身体が不自由になり 介護が必要な状態になること	59.9%
頼れる人がいなくなり 一人きりの暮らしになること	23.1%
生活のための収入のこと	33.7%
家業、家屋、土地・田畑や 先祖のお墓の管理や相続のこと	16.9%
家族との人間関係	7.6%
人（近隣、親戚、友人、 仲間など）とのつきあいのこと	6.3%
子ども孫などの将来	28.5%
親や兄弟などの世話	6.1%
社会の仕組み（法律、社会保障・ 金融制度）が大きく変わってしまうこと	21.6%
言葉、生活様式、人々の考え方などが 大きく変わってしまうこと	5.7%
だまされたり、犯罪に巻き込まれて 財産を失ってしまうこと	7.7%
その他	0.4%
特に不安を感じない	3.9%
わからない	1.7%



【問 23】 以下のような生活のお手伝いやサービスがあった場合、
利用したいと思われませんか。

		4 利用している	3 利用したい	2 将来は利用する かもしれない	1 今も将来も 必要ない	計	平均評点
①	話し相手や 相談相手	45	40	506	79	670	2.08点
		6.7%	6.0%	75.5%	11.8%	100.0%	
②	食事・掃除・ 洗濯の手伝い	40	21	485	128	674	1.96点
		5.9%	3.1%	72.0%	19.0%	100.0%	
③	家周りの 手入れ	40	43	467	122	672	2.00点
		6.0%	6.4%	69.5%	18.2%	100.0%	
④	配食 サービス	23	15	452	166	656	1.84点
		3.5%	2.3%	68.9%	25.3%	100.0%	
⑤	移動販売	37	22	419	178	656	1.88点
		5.6%	3.4%	63.9%	27.1%	100.0%	
⑥	買い物の 手伝い・代行	32	17	433	170	652	1.86点
		4.9%	2.6%	66.4%	26.1%	100.0%	
⑦	通院など 外出の手助け	59	34	454	114	661	2.06点
		8.9%	5.1%	68.7%	17.2%	100.0%	
⑧	ゴミ出し 電球の交換	29	14	402	209	654	1.79点
		4.4%	2.1%	61.5%	32.0%	100.0%	
⑨	雪かたし	54	48	395	165	662	1.99点
		8.2%	7.3%	59.7%	24.9%	100.0%	
⑩	安否確認の 声かけ	23	124	396	115	658	2.08点
		3.5%	18.8%	60.2%	17.5%	100.0%	

※回答を点数化し、加重平均したものを右端に記載（無回答は除いて算出）



生活支援サービスに対するニーズをうかがった設問である。合計 10 項目についてうかがっているが、上部の数表の右端の欄には、各回答を点数化し（点数については、表の回答選択肢上部に記載：4 段階評価扱い）、加重平均したものを評点として提示した。基本的には、評点が高いほどニーズが高いという事ができる。

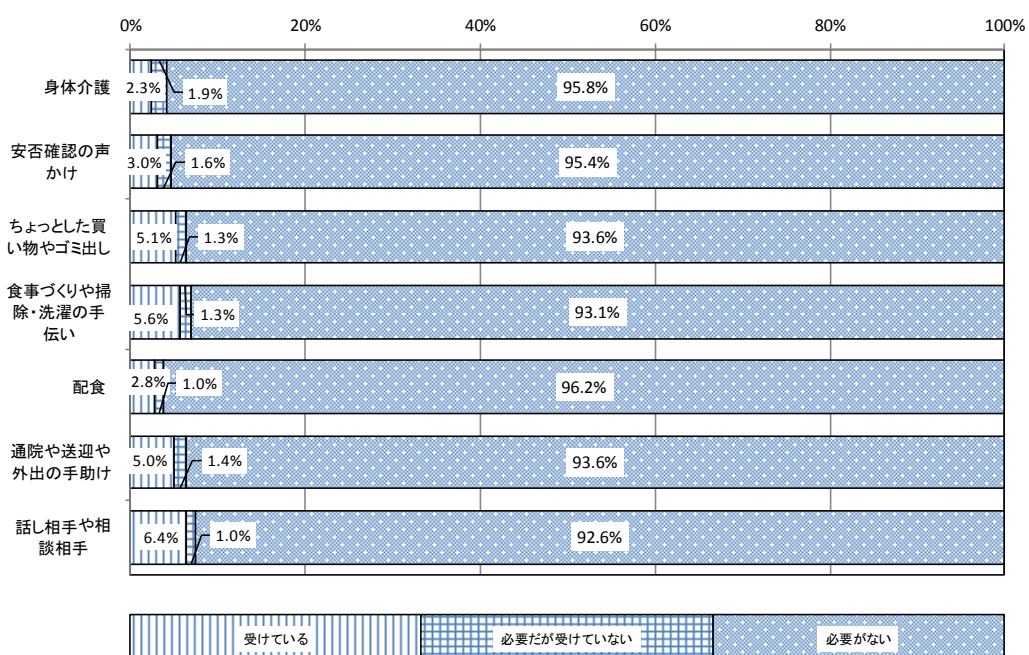
評点が高い方から、「話し相手や相談相手」（評点：2.08）、「安否確認の声掛け」（評点：2.08）、「通院など外出の手助け」（評点：2.06）、「家周りの手入れ」（評点：2.00）などが、ニーズが高い生活支援メニューであるという事ができる。

この 4 つの中でも、現在「利用している」が 3.5%しかないのに、「利用したい」が 2 割近く（18.8%）に上る「安否確認の声掛け」が、実際のニーズとしては、もっとも高いと捉えられる。

【参考】高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査

Q13.現在、あなたはこのような手助け・サービスを家族や家族以外の人から受けていますか。

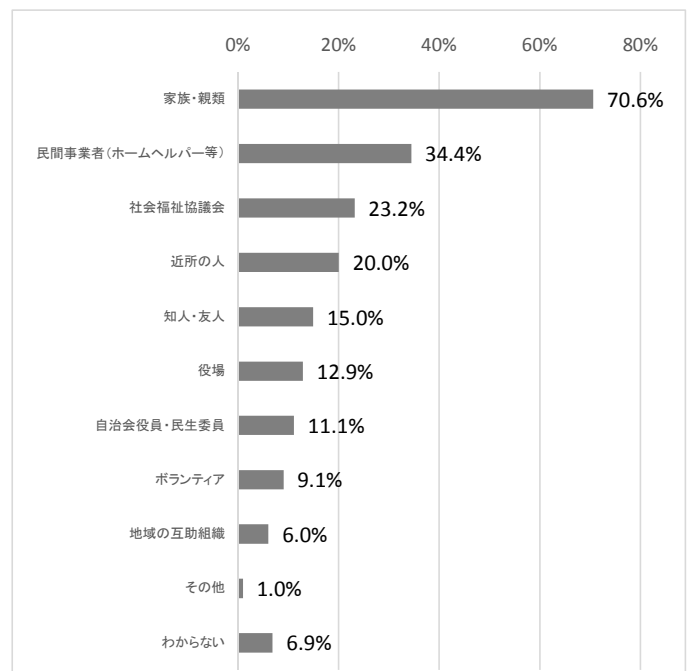
Q13	受けている	必要だが受けていない	必要がない
身体介護	2.3%	1.9%	95.8%
安否確認の声かけ	3.0%	1.6%	95.4%
ちょっとした買い物やゴミ出し	5.1%	1.3%	93.6%
食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	5.6%	1.3%	93.1%
配食	2.8%	1.0%	96.2%
通院や送迎や外出の手助け	5.0%	1.4%	93.6%
話し相手や相談相手	6.4%	1.0%	92.6%



【問 24】このような生活のお手伝いやサービスをしてもらう場合、
誰にしてもらうのが良いと思われますか。 ※複数回答

家族・親類	515	70.6%
民間事業者（ホームヘルパー等）	251	34.4%
社会福祉協議会	169	23.2%
近所の人	146	20.0%
知人・友人	109	15.0%
役場	94	12.9%
自治会役員・民生委員	81	11.1%
ボランティア	66	9.1%
地域の互助組織	44	6.0%
その他	7	1.0%
わからない	50	6.9%
合計	1532	210.2%

(N = 729)



生活支援のお手伝いをしてもらう際、誰に担ってほしいかを伺ったものである。

やはり、「家族・親類」が圧倒的で、7割（70.6%）に上る。次いで、「民間事業者（ホームヘルパー等）」が34.4%となっており、介護保険等のサービスで使い慣れている様子がうかがえる。

さらに「社会福祉協議会」（23.2%）、「近所の人」（20.0%）と続いている。社会福祉協議会も一定の認知度があることが理解できる。

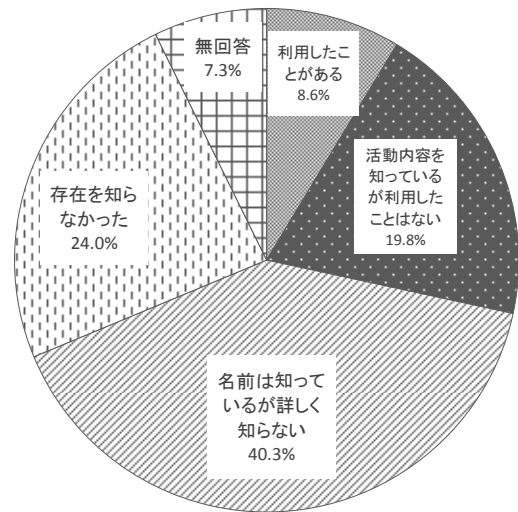
【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○年代別にみると、「家族・親類」との回答は、年代が高くなるにつれて増加する傾向にあり、逆に「社会福祉協議会」と「民間事業者」については、年代が若いほど増加する傾向にある。

○家族構成別にみると、「家族・親類」は、家族構成が大きくなるにつれて増加する傾向にある。また、単身世帯では、「友人・知人」や「自治会役員・民生委員」もやや高めの数値となっている。

【問 25】あなたは、「地域包括支援センター（高齢者あんしんセンター）」という組織をご存じですか。

利用したことがある	63	8.6%
活動内容を知っているが利用したことはない	144	19.8%
名前は知っているが詳しく知らない	294	40.3%
存在を知らなかった	175	24.0%
無回答	53	7.3%
合計	729	100.0%



地域包括支援センターの認知度を伺ったものである。

「利用したことがある」方は、1割弱（8.6%）となっているが、「知っているが利用したことはない」方が、2割（19.8%）と倍の数字となっている。

「名前は知っているが、詳しく知らない」が4割（40.3%）と多くなっているが、この層は実質的には、「存在を知らなかった」（24.0%）層と、ほぼ変わらないと推測される。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

○年代別にみると、80歳以上の層で「利用したことがある」が1割を超える一方、「存在を知らなかった」層も、80代以上で多いという結果となっている。

○家族構成別にみると、単身者で「利用したことがある」との回答が15.6%と他より高くなっている。また、「存在を知らなかった」層は、2世代世帯、3世代世帯で多くなっている。

○外出頻度別にみると、「利用したことがある」層は、外出頻度が低いほど多くなる傾向にある。また、「存在を知らなかった」層は、ほとんど外出しない人で多く、4割強（44.2%）に上っている。

○身体状況別にみると、「利用したことがある」層は、ADLが低いほど多くなる傾向にあり、生活全般に支援が必要な人では、27.0%と4人に1人が利用経験があると回答している。

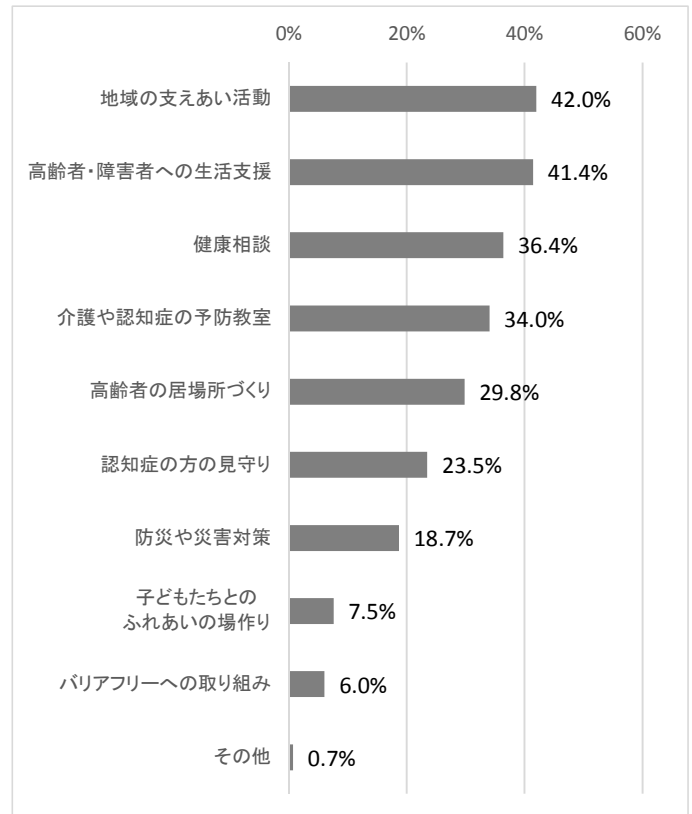
福祉・介護全般について

【問 26】 以下に挙げる福祉や介護の支援について、あなたは、何に力を入れるべきだと思いますか。特に重要だと思うものを3つ、お選びください。

※複数回答

地域の支えあい活動	306	42.0%
高齢者・障害者への生活支援	302	41.4%
健康相談	265	36.4%
介護や認知症の予防教室	248	34.0%
高齢者の居場所づくり	217	29.8%
認知症の方の見守り	171	23.5%
防災や災害対策	136	18.7%
子どもたちとのふれあいの場作り	55	7.5%
バリアフリーへの取り組み	44	6.0%
その他	5	0.7%
合計	1749	239.9%

(N = 729)



福祉や介護で、力を入れるべき分野をうかがったものである。

平均で2項目強の回答となっている。ここでは、「地域の支えあい活動」(42.0%)と「高齢者・障害者への生活支援」(41.4%)が、ほぼ同率で上位に挙げられており、次いで「健康相談」(36.4%)、「介護や認知症の予防教室」(34.0%)、「高齢者の居場所づくり」(29.8%)あたりまでが3割ほどの支持を受けている。

【クロス集計（クロス集計表については、別添資料参照）】

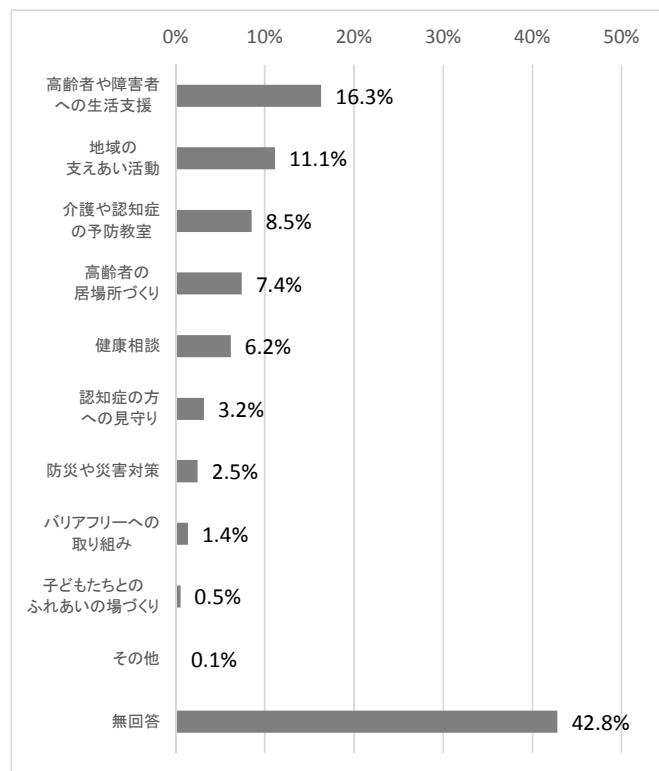
○性別でみると、男性では、「高齢者や障害者への生活支援」（47.0%）や「防災や災害対策」（24.4%）が女性に比べ高く、女性では「介護や認知症の予防教室」（38.6%）が男性に比べ高い。

○職業別にみると、会社員・団体職員で平均回答数が3.5個（345.5%）と他に比べ多く、関心の高さと捉えられる。その中でも、「地域の支え合い活動」、「介護や認知症の予防教室」、「高齢者や障害者への生活支援」などが目立って高い。

○地域別にみると、「介護や認知症の予防教室」が、高田地域でやや低く、新鶴地域で高い。新鶴地区では、「健康相談」もかなり高い数字（45.2%）となっている。本郷地域では、「地域の支え合い活動」が他地区に比べ低く（36.3%）、「高齢者の居場所づくり」が高く（35.1%）なっている。

【問 27】 問 26 の質問でお答えいただいた項目のうち、
もっとも重要だと思われるものの番号をご記入ください。

高齢者や障害者への生活支援	119	16.3%
地域の支えあい活動	81	11.1%
介護や認知症の予防教室	62	8.5%
高齢者の居場所づくり	54	7.4%
健康相談	45	6.2%
認知症の方への見守り	23	3.2%
防災や災害対策	18	2.5%
バリアフリーへの取り組み	10	1.4%
子どもたちとのふれあいの場づくり	4	0.5%
その他	1	0.1%
無回答	312	42.8%
合計	729	100.0%



ここでは、前問（問 26）で回答いただいたものから、最も重要と思われるものをひとつ選んでいただいた。

そこで最も多かったのは、「高齢者や障害者への生活支援」（16.3%）であり、前問でこの回答を選んだ人の 4 割（39.4%）の方が、最も重要であると回答していることになる。なお、2 番目には、前問で最も多かった「地域の支えあい活動」が 11.1%で続いている。

なお、本設問におけるクロス集計では、有効回答数が少ないのに加え、有意と認められる差違があまり見られなかったため、コメントを差し控えた。